

新居浜市男女共同参画社会に関する

市民意識調査 — 報告書 —

【速報値】

2024年11月



1. アンケート調査概要
2. 回答者の標本構成
3. 「ジェンダー平等」について
4. 結婚観や家庭生活などに関する考え方について
5. 仕事について
6. 防災について
7. 市政方針決定等への女性参画について
8. ドメスティック・バイオレンス（DV）について
9. ワーク・ライフ・バランスについて
10. 新居浜市が取り組むべきことについて

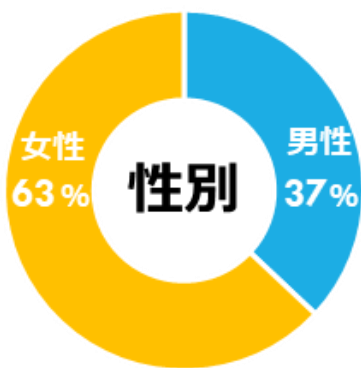
1 アンケート調査概要

- 調査目的 令和3年3月に策定した『第3次新居浜市男女共同参画計画』の中間見直しにあたり、男女共同参画に関する意識や意向、ニーズを把握し、今後の施策展開の参考とするため。
- 調査対象 市内に居住する18歳以上の個人（住民基本台帳記載者）
- 有効回答数 324人（有効回収率32.4%）
- 調査期間 2024年8月20日～9月10日

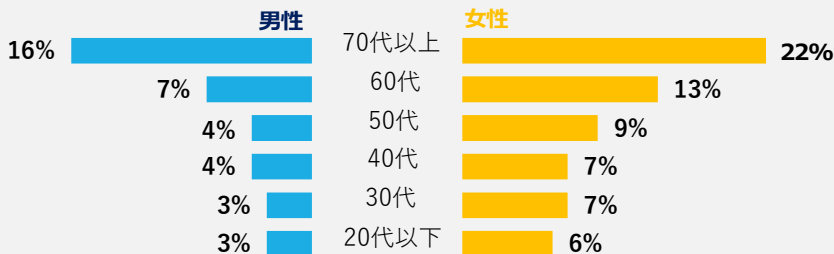
報告書の見方

1. 集計は小数点第1位を四捨五入しています。したがって数値の合計が100%にならない場合があります。
2. 該当する設問に対する未回答を表示していない場合があるため、各回答の構成比の合計が100%にならない場合があります。
3. 図表中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化しています。

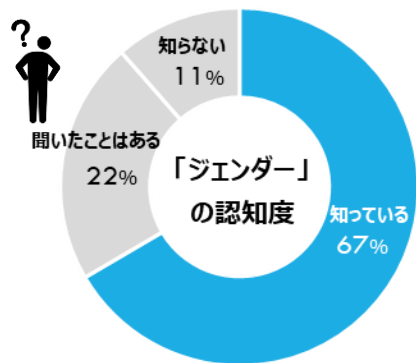
2 回答者の標本構成



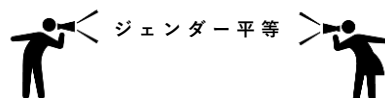
男女別年代構成比



3 「ジェンダー平等」について



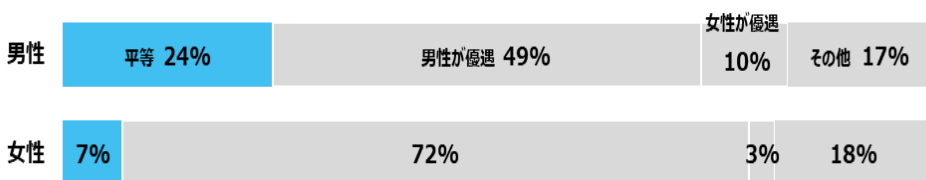
「ジェンダー」について、「知っている」と回答した割合は67%であった。なお、前回は「男女共同参画社会」の認知度を調査したが、こちらは「知っている」と回答した割合は38.5%であった。

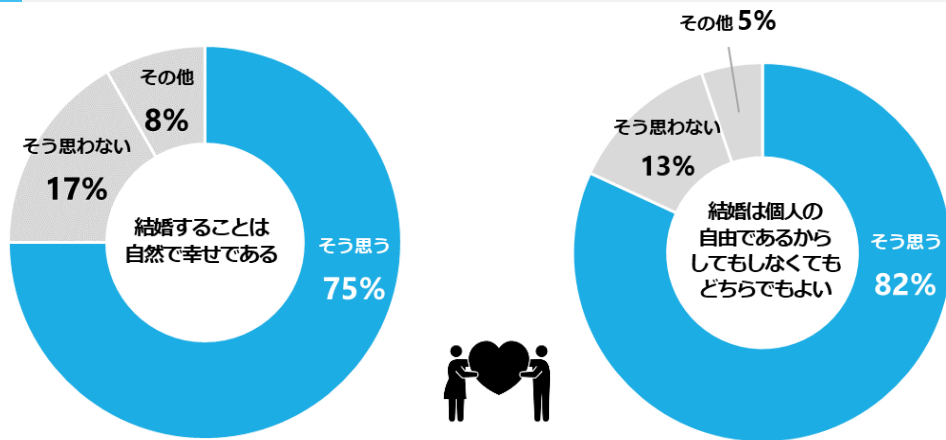


男女の平等意識については、前回調査同様、どの分野においても「男性が優遇されている」と回答している割合が多くなっている。

しかしながら、「社会全体」における平等について、前回の回答と比べると、「男性が優遇されている」と回答している割合は減少し、「女性が優遇されている」と回答している割合は増加した。

社会全体における男女の平等について

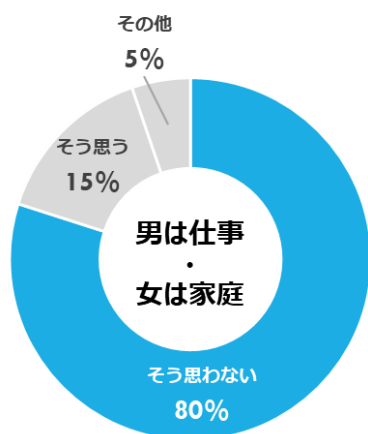




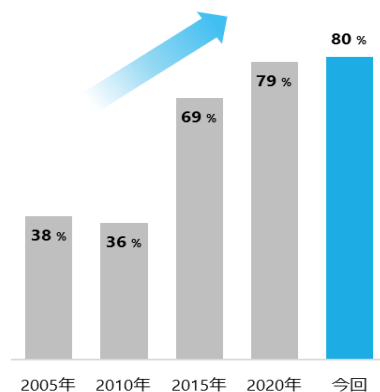
結婚に対しては「結婚をすることは自然で幸せである」と肯定する割合は75%で前回より5%減り、その反面、「結婚をしてもしなくてもどちらでもよい」と回答した割合は82%で、前回よりも10%高くなっている。



固定的役割分担意識について



「そう思わない」と回答した割合は20年間で**2倍**となった



固定的役割分担意識

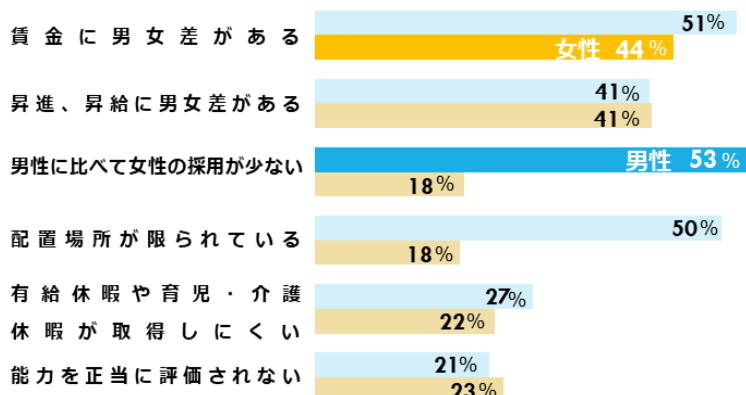
男女問わず個人の能力等によって役割を決めることが適当であるにも関わらず、「男性」「女性」という性別を理由として、役割を固定的に決めることを言います。「男は仕事・女は家庭」「男が主要な業務・女は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

『男性は仕事、女性は家庭』という固定的役割分担意識について、「そう思わない」と回答した割合は増加している。

男女別では、「そう思わない」と回答した割合が、女性が男性より7%上回っている。

5 仕事について

職場における女性の待遇等について (複数回答)



全体的に「賃金」「昇進・昇給」の男女間の格差を感じている意見が多く、上位2項目を占めた。

男性は「女性の採用が少ない」「賃金に男女差がある」「配置場所が限られている」と感じている割合が多く、5割超となっている。

女性は「賃金」「昇進・昇給」に次いで「能力を正に評価されない」「休暇が取得しにくい」となっている。



6 防災について

防災活動において男女共同参画を推進していくために必要なこと (複数回答)

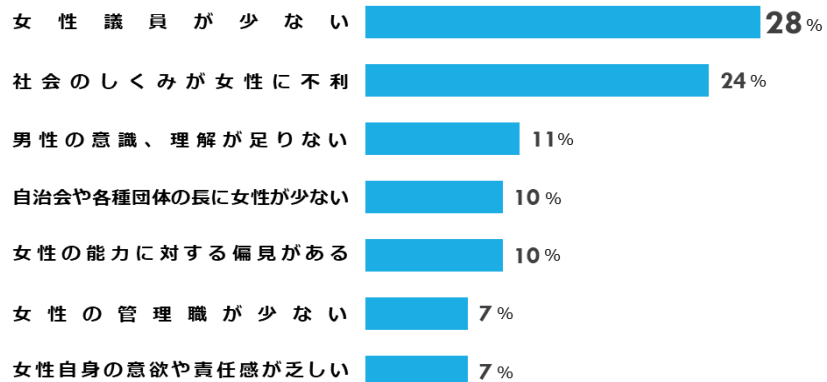
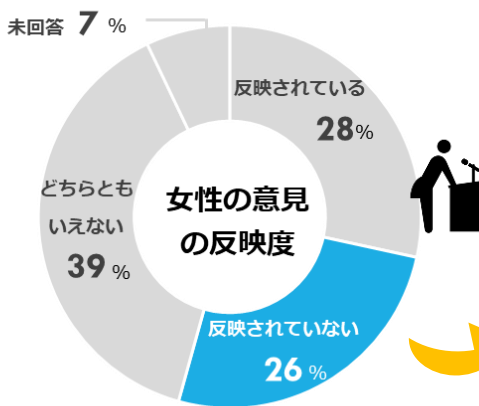


全体では、被災者相談体制、防災会議、避難所設備、避難所運営、災害復旧・復興対策計画に関する項目が上位を占め、それぞれが6割を超えた結果となっている。



7 市政方針決定等への女性参画について

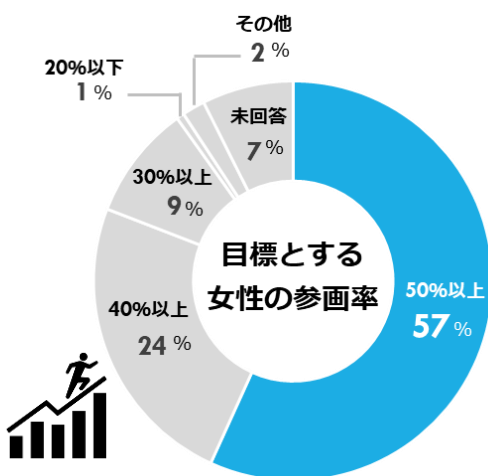
市政運営における女性の意見の反映について



市政運営における女性の意見の反映について「どちらともいえない」と回答した割合が約4割となっている。年代別にみると、若年になるにつれて「どちらともいえない」と感じている割合は増加傾向にあった。

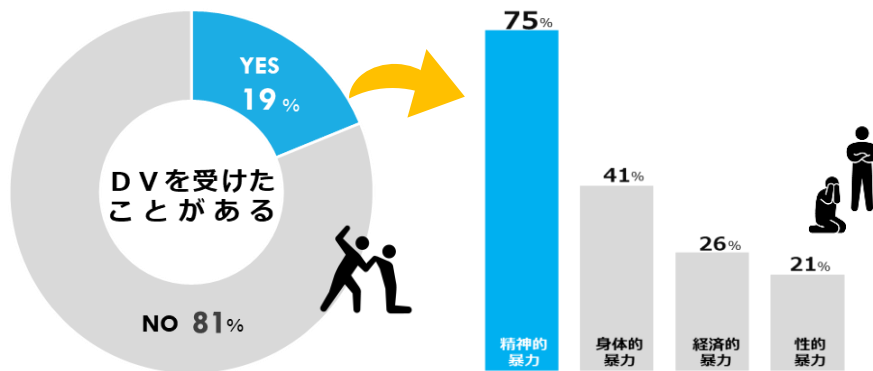
反映されていない理由として「女性議員が少ない」とする割合が最も高かった。次いで、「社会のしくみが女性に不利」という意見も多くみられた。

女性の参画率について ※2024年4月1日現在 参画率32.5%



参画率50%を目標値にするべきだと回答した割合は57%で前回より15%増加した。現在の参画率が32.5%であることから、より多くの女性の参画を望んでいる結果となった。

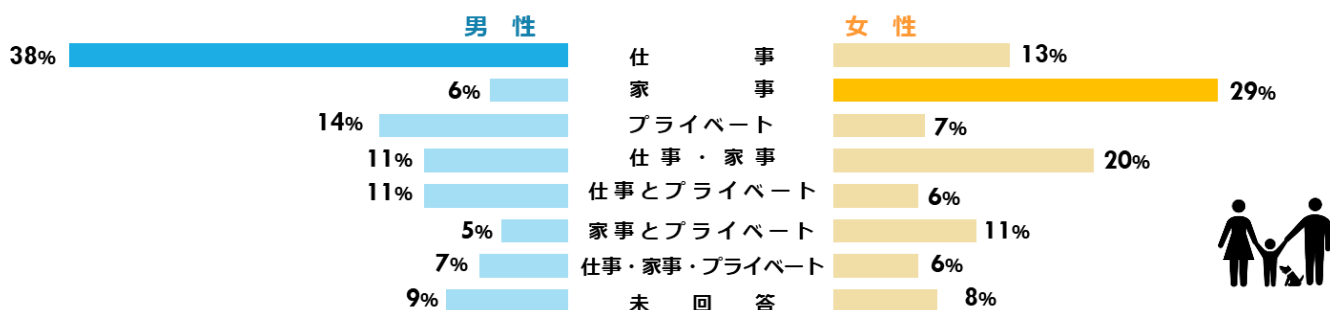
参画率の目標値を選んだ理由としては「女性の意見をどんどん反映すべきだ」とする回答が最も多い反面、「現実的には難しい」と回答した割合が次いで多くなっていた。



全体の19%がDV被害を受けたことがあり、男女別で見ると男性の8%、女性の25%がDV被害を受けていた。

DV被害を受けた人の8割弱が精神的暴力を受けており、次いで約4割の人が身体的暴力を受けている。

仕事・家事・プライベートの優先度（現状）

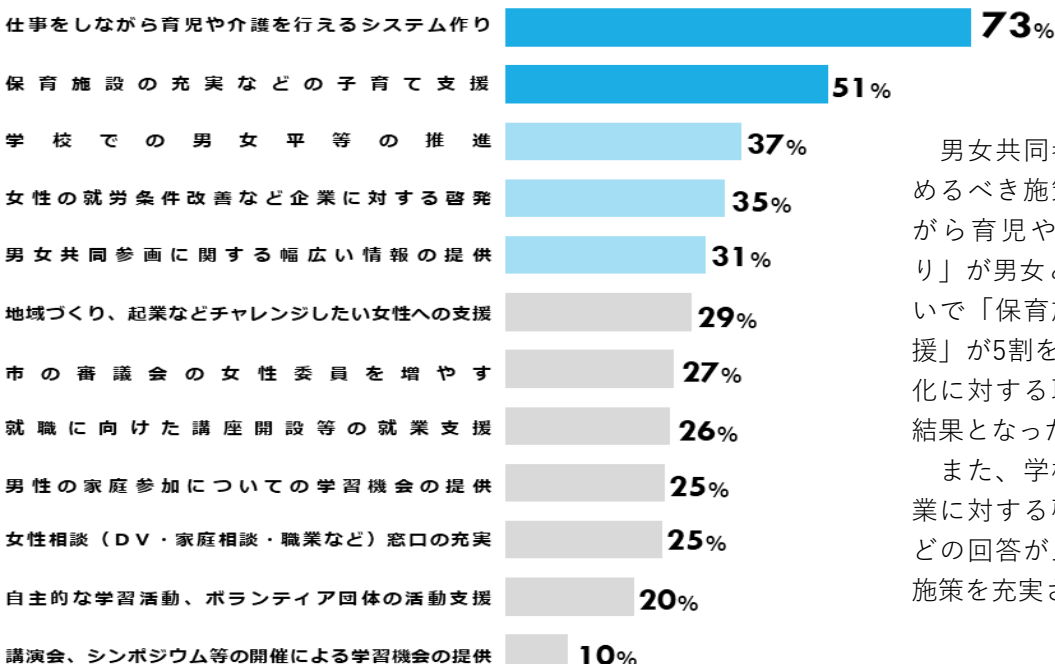


仕事・家事・プライベートな時間の優先度を聞いたところ、現状では男性は仕事、女性は家事をそれぞれ最も優先していると回答した。前回と比較すると、最多のものは同じであり、それぞれ占める割合は増加している。

また、理想の優先度では、男女とも約4割が「仕事・家事・プライベートの両立」と回答し、前回より男性14%、女性4%減少し、次いで男性は「プライベート」、女性は「家事とプライベート」を優先したいと回答していた。

10 新居浜市が取り組むべきことについて

男女共同参画社会の実現に向けて進めるべき施策とは（複数回答）



男女共同参画社会の実現に向けて進めるべき施策について、「仕事をしながら育児や介護を行えるシステム作り」が男女とも7割を超え最も高く、次いで「保育施設の充実などの子育て支援」が5割を超え、男女ともに少子高齢化に対する取り組みが必要であるとの結果となった。

また、学校での男女平等の推進、企業に対する啓発、幅広い情報の提供などの回答が上位を占め、今後これらの施策を充実させていく必要がある。